

## 令和3年度 第2回埼玉県地方独立行政法人埼玉県立病院機構評価委員会 抄録

**日 時** 令和3年11月16日(火) 18時00分～18時30分

**場 所** Web会議

**出席者** 【委員会】委員長 金井 忠男 埼玉県医師会 会長  
委員 小池 創一 自治医科大学地域医療学センター  
地域医療政策部門 教授  
委員 中込 秀明 富士電子株式会社 代表取締役社長  
埼玉県経営者協会 副会長  
委員 中村友理香 中村公認会計士事務所 所長  
公認会計士  
委員 松田久美子 埼玉県看護協会 会長  
(五十音順・敬称略)

【病院機構】岩中理事長、表副理事長、竹田理事、高窪本部長 ほか

【事務局】関本保健医療部長、縄田保健医療政策課長 ほか

### 次 第

1 開 会

2 議 題

(1) 地方独立行政法人埼玉県立病院機構の業務実績に関する評価基準(素案)について

3 閉 会

## 発言要旨

### 1 開 会

- ・公開及び傍聴の決定（傍聴者4名）

### 2 議 題

- (1) 地方独立行政法人埼玉県立病院機構の業務実績に関する評価基準（素案）について（資料1-1、1-2、1-3）

#### （小池委員）

前回申し上げた意見1から意見3については、いずれも丁寧に対応していただいております。内容的にもこれでよい。

あえて気になる点をコメントすると、意見1の中期目標と中期計画の進捗状況は全体評価の中で記載するだけでなく、他の評価項目の中でも記載した方が意識が薄れないのではないかと思います。

また、困難度については基準となる取組の線引きが難しいので、当初意図していた内容とズレていないか評価委員会としても確認しつつ適宜修正していった方がよい。

#### （事務局）

中期目標と中期計画の進捗状況については、小項目や大項目評価の中で記載する方法もあると思う。この評価基準では全体評価の中で記述する方法としているが、中期的な視点を持って計画の進捗状況をしっかり把握していく。

また、困難度の高い取組については、各病院から計画の取組実績と併せて報告してもらい、その内容や病院間のバランスなどを見ながら数を絞って選んでいく。実際の評価報告書の作成にあたっては、評価委員会にも理由を示しながら進めていく。

#### （金井委員長）

まずはこの評価基準をもとにしっかりと評価を行っていくということによろしいか。

#### （小池委員）

結構である。

#### （中込委員）

前回申し上げた意見4の困難度についてはこの内容でよい。計画の指標はどれも重要なものだが時代とともに医療も変化していくので、時代のニーズに合った医療サービスを提供するための新たなチャレンジを高く評価したいという趣旨である。

運用面で難しい部分はあると思うが、県立病院としてさらに素晴らしい医療が提供できるようなチャレンジをしていただきたい。

**(金井委員長)**

そのような方向で評価を進めていくということによろしいか。

**(事務局)**

結構である。

**(中村委員)**

困難度を判断する時期についてだが、資料からは事業年度終了後に判断すると読み取れるが、理想としては計画策定時にあらかじめ困難度の高い取組を選定しておいて、そこに資源を投入していくという方法も考えられるがどうか。

**(事務局)**

あらかじめ困難度の高い取組として設定することで年間を通して重点的に取り組めるというメリットはあるが、令和3年度の事業年度はすでに始まっているので年度終了後に取組実績を踏まえて困難度を判断することとしたい。

令和4年度以降については、現在病院機構で令和4年度の計画策定作業を進めているところなので、県と病院機構で相談しながら検討していきたい。

**(金井委員長)**

そのような対応によろしいか。

**(中村委員)**

結構である。

**(金井委員長)**

それではこの評価基準については、本委員会として「適当である」と判断してよろしいか。

<各委員了承>

**(金井委員長)**

本日の議題は終了し、これで本年度の委員会はすべて終了となる。委員の皆様には大変お忙しい中、活発な御議論をいただき感謝申し上げます。

**3 閉 会**